

■2021年度 自己評価結果

評価点 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅰ	教育理念・目標	1	学校理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	明確に定めている	特になし
		2	学校における職業教育の特色は明確であるか	4	学校基本情報に明確にうたっている	特になし
		3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	常に社会のニーズを踏まえた教育目標を設定している	特になし
		4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	オリエンテーション、オープンキャンパスなどを通じて周知している	特になし
		5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学科ごとの特色のあるカリキュラムにより方向づけられている	特になし
Ⅱ	学校運営	1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針は明確に策定されている	特になし
		2	運営方針に沿った事業計画は定められているか	4	運営方針に沿った授業計画を策定している	特になし
		3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	定期的な職員会議を開催し意思決定を行っている	特になし
		4	人事、賃金面での処遇に関する制度は整備されているか	4	整備されている	特になし
		5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	法人の理事会、評議委員会で行われている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅱ	学校運営	6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	整備されている	特になし
		7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	シラバス・ホームページにより適切になされている	特になし
		8	情報システム化等による業務効率化が図られているか	4	情報システムの担当者を配属し、集中管理し効率化を図っている	特になし
Ⅲ	教育活動	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	策定されている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する
		2	教育理念、育成人材像や業界にニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	明確にされている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する
		3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	編成されている	特になし
		4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし
		5	関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし
		6	関連分野における実践的な教育産業（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし
		7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	学生による授業評価を実施している	特になし
		8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	インターンシップ等の機会を通じて取り入れている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅲ	教育活動	9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	明確になっている	特になし
		10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科の特性に応じ、必要な資格を体系的に位置付けている	特になし
		11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	実務経験のある教員を中心に確保している	IT関連の教育を行える新たな人材を確保したい
		12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	自身の専門業務を行いながら本校の教育に携わる外部講師を多く確保している	特になし
		13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、教員に向けての研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	行っている	特になし
		14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	行っている	特になし
Ⅳ	学修成果	1	就職率の向上が図られているか	4	専任の担当者を置き、就職率の向上を図っている	特になし
		2	資格取得率の向上が図られているか	4	通常授業内以外に専科、補講を設け、資格取得率の向上に努めている	特になし
		3	退学率の低減が図られているか	3	担任、教務などがきめ細かく対応しているが、一定数の退学者がいる	経済的な要因で学習意欲が低下していく学生に対する方策を考える
		4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	企業と連絡を密にし、就職した学生の動向を把握している	特になし
		5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	企業説明会やセミナーの際の来校や、卒業生のSNSフォローなど、学生のキャリア教育の向上に活かしている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
V	学生支援	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	整備されている	特になし
		2	学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任や教務により対応はしているが、コロナ禍でメンタル面の問題を抱える学生も多く対応に苦慮している	学校法人の設置しているカウンセリング制度を、利用しやすく改善したい
		3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金、専門実践教育訓練給付金制度などで対応している	特になし
		4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年1回健康診断を行っている	特になし
		5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	学生の参加するファッションショーなどに、学校の備品、施設の貸し出しなどを行っている	特になし
		6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生会館の紹介により行っている	特になし
		7	保護者と適切に連携しているか	4	必要に応じ、書面、メールを用いて連携している	特になし
		8	卒業生への支援体制はあるか	3	施設、備品の貸出、業務内容の広報、SNSなどによる情報拡散で支援している	同窓会による支援体制の強化を図りたい
		9	社会人のニーズを踏まえ教育環境が整備されているか	2	社会人の入学生がごく少数のためあまり整備されていない	特になし
		10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	一部の高校へ出張授業などを行っている	さらに多くの高校と取り組みを行いたい

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅵ	教育環境	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	整備されている	特になし
		2	学外研修、海外研修、インターンシップ、等について十分な教育体制を整備しているか	4	整備している	特になし
		3	防災に対する体制は整備されているか	4	整備されている	特になし
Ⅶ	学生募集	1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	オープンキャンパス、入学相談会、高校訪問等により実施している	特になし
		2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	伝えられている	特になし
		3	入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか	4	行われている	特になし
		4	学納金は妥当なものとなっているか	4	妥当と思われる	特になし
Ⅷ	財務	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	安定している	特になし
		2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	妥当である	特になし
		3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	適正に行われている	特になし
		4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	整備できている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
IX	法令等の遵守	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	適正に運営されている	特になし
		2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	適正に対策している	特になし
		3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	行っている	特になし
		4	学校自己評価の結果を公開しているか	4	学校サイト上で公開している	特になし
X	社会貢献・地域貢献	1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地場産業や商業施設などとのコラボレーションイベントなどを随時行っている	特になし
		2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	必要であれば支援しているが、把握しきれていない部分もある	特になし
		3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	行っている	特になし
XI	国際交流	1	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	4	取られている	特になし
		2	留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか	3	特に積極的には行っていない	特になし
		3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	整備している	特になし
		4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	国内外のコンテストに応募するなどして取り組んでいる	特になし

2022 年 3 月 20 日

学校関係者評価委員会報告書

名古屋ファッション専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会出席者（順不同・敬称略）

名古屋帽子協同組合 理事長 林幸春
株式会社織研新聞社名古屋支社 名古屋業務部課長 久保寺恭稔
駐日タンザニア大使館商業文化交流中部地区 名誉代表 清水邦子
D h a l 代表 水谷美知
名古屋ファッション専門学校 校長 佐藤弥生
名古屋ファッション専門学校 教務主幹 桐谷里砂

2. 学校関係者評価委員会開催日時

2021 年 11 月 10 日（水）10 時

3. 参考資料

- ① 学校関係者評価委員会報告書
- ② 2020 年度 自己評価結果
（教育理念・目的・人材育成像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、
学生の募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献）
- ③ 2020 年度 学内外行事記録
- ④ 2020 年度 クラス別就職状況

4. 報告内容

I. 教育理念・目標

現状と課題	本校の建学の精神である「実学と人間教育」を教育理念とし、各学生の就職目標に応じた知識、技術を身に付けるための実務教育を主体とした学習内容に加え、社会人としての一般常識、マナーなどをバランスよく習得できるような授業計画を立てている。時代に即応した実践教育を行い、ファッション製品の企画・生産、流通、販売促進などの業務を通じて、アパレル業界で活躍できる人材の養成を目的とする。 明確な目的意識や自己研鑽の意識の薄い学生も多く、就職に向けての意識付けが困難に感じられる場面も多い。
-------	--

<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	地球規模での大きな変革期にある。その大変な時期に専門学校で学ぶ学生にとって、単純にコミュニケーション力がポイントにはなるが、その人たちが育った環境、例えば揉まれたり、熱くなったり過剰を表現するといったことを経験せず、スマートに生活してきたことが大きく影響してくると思う。SNS の使用に長け、承認欲求が強いという特徴を持っている。対面で仲の良い友達関係はあるかもしれないが、そのグループからはみ出すことを良しとせず、周囲に合わせてしまう。私の息子も友人は多いようだが、LINE、Facebook、Instagram など、どちらかというとりアルよりはバーチャルな空間で繋がっている感がある。そのような世代に、どのように対応すれば教育する側の意図が正確に伝わるのか？ 一方でそのような繋がりを面倒に思わず、更に世代の異なる人とも会話ができる、応対できる能力は身に付けておかないと、ファッション業界でははじき出されてしまうと思う。 ファッション業界では EC の発達も目覚ましいが、やはりコミュニケーションが基礎中の基礎なので、なんでも yes で答えてしまうのでは成り立たない。投げかけられたことに対し、受け止め、理解し、投げ返す訓練をしなければならない。
<学校> 改善案など	学生の意識改革のため、「再審査」や「特別認定講座」など、進級システムの見直しを行い、自らの学習内容を把握し、自己研鑽できるような学生を育てたい。

II. 学校運営

現状と課題	学校法人の運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。 本学全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」は既定の委員により協議決定して実施する。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学校の運営については、ファッション業界の動向を推測しながら適正な事業計画を定めて遂行されていると思う。 先日スクール分野の会議があり、関西の某専門学校が他に先駆けて 3D モデリストを育てるコースを開設したり、コロナ禍において、学生の在学中に独立支援するような教育に力を入れる方向に舵を切っていることが話題になっていた。しかしどこまでそれを進めるのか。正直なところ基礎をきちんと学ばないうちに、企業と学生を繋げる、コラボレーション、マッチングといったような方向を強化することで学生が伸びていくのかと個人的には疑問に思うが、そういう専門学校も出てきている。
<学校> 改善案など	今後もファッション業界の動向をしっかり捉え、時勢に応じた学校運営の方向性を策定したい。

III. 教育活動

現状と課題	教員の専門性を高めるための各種研修会、セミナーへの参加、研究発表への参加などは、昨年度に続きおおむねオンラインにて行なった。移動、拘束時間の制限が緩くなった分、多くの教員が研修などに参加でき、常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集し、世情に合った授業内容の刷新を図っている。 学生の授業においてもコロナ対応として遠隔授業、分散授業を取り入れ、通常の授業内容と質、量ともに大きな変化のないよう工夫をしている。 今後も校内での安全策の実施と、実技、実習を中心に学習するという専門学校の特色をどのように両立させるかはさらに検討の余地がある。 アパレル企業各社との連携を密にし、アパレル業界のニーズにあったカリキュラムを実施する体制を整えており、3DCAD システムの導入や、ネット販売の企画シミュレーション授業も行っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	サステナブル、SDG s の一方で、デジタル化により時間を短縮する、距離を縮めることが進められている。ファッションの基礎を学ぶことと、時代にどう対応して人と関わっていくのかということを、専門学校という短い在学期間で同時に教えるにはどのようにしたら良いのか。 失われた 20 年から 30 年に入り、ファッション業界は淘汰の時代になっている。大量生産大量販売という流れに抵抗が強まり、量販においても「適正売り場」という、非アパレルの売れる商材をどう顧客に購入してもらうかという流れもある。これがどのような形で着地するのか、だれにも分からない状況でもある。その中で学生を教え、就職させることの難しさを感じる。
<学校> 改善案など	コロナ禍ではあるが、引き続き教職員がアパレル企業に勤務している卒業生と連絡を取り、企業、業界の実情を聞く機会を数回持った。それにより、授業の内容や進め方に多くのヒントが得られた他、それをきっかけに遠隔ファッションセミナーの形式で就職後の実情や業界について学生が直接話を聞く機会も 5 回以上設けることができた。学生が満足し、結果を出せるような授業を行うため、遠隔授業などを組み合わせ、更に工夫していきたい。

IV. 学修成果

現状と課題	本学は担任制をとっており、各担任が就職部と連携を取り、各学年の「就職特別講座」や「進路報告書」の記入・提出を徹底している。 就職希望者の内定率は下記ようになっており、目標の 100%、もしくはそれに近い結果を出している。今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。 2017 年度 100.0% 2018 年度 98.5% 2019 年度 100.0% 2020 年度 100.0% 2021 年度 100.0%
-------	---

	資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組んでいる。昨年よりも合格率が上向いている検定もあり、今後も授業内容や指導方法の検討を重ねたい。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	時代は間もなく「5G 時代」へと進み、これまでの社会通念や常識、慣習が大きな変化を遂げる。しかし、その一方で SNS の普及により企業間やチーム間だった取り組みがよりパーソナリティを必要とされる社会へと進展していく気がする。「デジタルと SDG's の融合」が求められてくると思う。その意味では既成概念にとられない若い世代の活躍の場は徐々に広がっていくと見ており、時代の要請や社会構造の変化にも目を向けた講義も必要になってくると感じている。また、その一方で「アパレル業界で活躍できる人材の養成」というファッション系専門学校の使命も当然重要である。しかし、コロナ禍で衣料関連業界の就職人口は大幅に減少し、非接触型の職種へ転職する事態が生まれている。今一度、人との関りを最も大切にする業界として産官学の連携も重要だと思っている。 「夢のあるファッションビジネス業界への再生」を可能とする人材育成が専門学校としての正念場であり、踏ん張り所だとエールを送りたい。
<学校> 改善案など	コロナ禍における就職状況は、2020 年度より 2021 年度の方がさらに厳しさを増すと予想される。就職担当部署と連携し、企業情報を取り漏らさないよう細心の注意を払ってあたりたい。

V. 学生支援

現状と課題	入学から卒業するまで、学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要であるが、本校はそれぞれの目的に沿って支援を行っている。 就職指導は、就職部の担当者主導のもと、教員との連携で支援を行っている。具体的には、エントリーシート記入、就職面接練習、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、校内企業説明会の開催である。その結果、就職率のアップに繋がっている。 中途退学者率を極力減少させることを目標に担任は保護者、教務との連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化しているが、一部のクラス担当教員に、各所への連絡の遅れ、漏れが散見する。 学生の経済的支援としては、奨学金を必要としている学生が申込みの機会を逃すことのないよう、本校独自の奨学金制度や、国の就学支援策などを随時説明している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	就職希望の若い方たちの面接を何人かして、20 代の持ってくる履歴書はファイル形式で自己アピールがものすごくたくさん書かれている。30、40 代の方は経歴が簡単に書かれていて、あとは面接で勝負という感じ。若い世代は情報をまとめているという感じが履歴書から感じられる。実際そういう方と会話してみると、自分の話しはできるがこちらから問いかけたことに答えられなかったりする。質問しているのに質問ではないことが返ってきたりする。こういう点が心配に思う。

	就職後も、若い方をより良く育てるためにこちらから伝え方というものも考えなければいけないと強く感じている。お客様のためを思って「これをこうすればお客様が喜ぶんだよ」ということを先に伝えるのではなく、「結果がすべてだよ」ということを先に伝えて、その後なぜ結果がすべてだと伝えたのかを説明するという指導の仕方を心掛けている。何事も、自発的に考え行動できる人間を育てて欲しい。
<学校> 改善案など	コロナ禍により、就職活動の形式が遠隔面接になるなど大きな変化が見られる。更に学生の学校生活、私生活も含め、あらゆる面での支援が必要となっており、思いもよらない部分で教職員の手が回らない事態が発生したこともあった。今後どのように対応を強化していくのか、再度検討をしたい。

VI. 教育環境

現状と課題	縫製やドレーピング、パターンメイキングなど、ファッション造形に関する備品（ミシン、特殊ミシン、アイロン、ボディなど）や、IT 機器などの施設・設備は、教育の必要性に応じて整備充実を図っており、2020～2021 年度は、大規模なプロジェクター機器の増設など、密を避けるための工夫、改善を行った。 校舎は 9 年前に耐震工事を完了し、安全が確保されている。また、校内外の整備は専門業者により行き届いており、コロナ対策としての清掃、消毒を行い清潔な環境が整っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	校舎の一部が西棟から東棟に移転し、特別教室やパソコン教室などが刷新され、動線などもスムーズになった。 密を避けるため、教卓に学生を集めず、教員の手元をプロジェクターに投影する形式で授業を行うなど、他の専門学校や高校などと比較しても設備的に見劣りするところは感じられない。コロナ対応として、日々の清掃、消毒や手洗いなど生活習慣の励行がきちんと行われており、学内でのクラスター発生も無く、学生の保護者も安心すると思う。
<学校> 改善案など	引き続きコロナ対策としての清掃、消毒を行い清潔な環境を整えると共に、密を避けるための工夫、改善を続けたい。

VII. 学生募集

現状と課題	学校経営の基盤である学生募集については、教員をはじめ全職員が連携し取り組むべきであるが、業務過多のため意識の薄い教員もいる。 継続して高校などへの教務訪問を行い広報に務めてきたが、コロナの影響で大幅に訪問数が減少し、半面自校で開催する対面、オンラインでのオープンキャンパスへの参加者はそれほど減っていない。 同種の全国的な有名校と比較しやや認知度が低い印象があるため、認知度を高めるために学校案内（冊子）、WEB サイト、SNS など広告宣伝は、毎年高校生の動向を見つつ行っている。
-------	---

	入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。 学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な金額を設定している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	「手に職を付ける」ということに魅力を感じているのか、4 年制大学に比較し専門学校での募集状況は順調といえる。そのなかで 2021 年度入学生の数が前年に比較し減少していることについては、しっかり原因を突き止め改良する必要があると感じた。
<学校> 改善案など	コロナの影響で、学生募集についての環境も、一気に大きな変化が起こった感がある。今までに試みたことのない手法にも予算の範囲内できちんと対応したい。回を重ねてきた高校生対象のデザイン画コンテストの認知度も、徐々に上がってきたと感じるので、更に普及させたい。

VIII. 財務

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学校法人中西学園の擁する学校ということで、信頼感は大きく感じる。
<学校> 改善案など	さらに財務状態を良好にするため、学生募集に力を入れ、無駄な支出が無いか見直しをしたい。

IX. 法令等の遵守

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。 法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。 また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、校長会議、職員会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	今後も現状を維持したい。

X. 社会貢献・地域貢献

現状と課題	社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、学生を教育するうえでも大切なことと捉えて推進している。地域の各団体と積極的にコラボレーションし、ファッションショーやイベントへの参加を通してかかわりを深めているが、今年度はコロナの影響で各種イベントが軒並み中止となり残念だった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	コロナ禍ではあるが、学生が学びを生かして地域と協力してイベントなどを行う試みは今後も是非継続して欲しい。そのためには当組合も協力を惜しまない。 また、このような時代ならば学校から要請があれば、パブリックスペース、百貨店、ファッションビルなどの発表スペースも通常よりも安価に借りられるのではないか。
<学校> 改善案など	今後も感染症拡大の様子を見極めながら、できるだけ多くの社会貢献、地域貢献行事に取り組みたい。

XI. 国際交流

現状と課題	留学生がごく僅かに在籍しており、会話などには不自由ないが、書類記入や課題作成などには担当者のきめ細かな配慮が必要である。 ファッション流通科の授業の一環として行っている「タンザニアフィリア」とのコラボファッションショーだが、コロナの影響のため開催できなかった。また恒例となっていた海外研修旅行も、残念ながら催行中止となった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	コロナ禍が収まれば、今までの取り組みに加え、カンガの布を使用して新たにデザインされた洋服を制作していただき、こちらの学校の学生さん、先生方の力を拝見したい。タンザニアの皆さんと遠隔で繋がって、彼らのオフィスを見たり、直接質問を投げかけたりしてみてもどうか。日本人と異なって、積極的に個人がそれぞれの意見を持つことに違和感を持たない彼らと触れ合って、信頼関係を築いてほしい。
<学校> 改善案など	留学生の受け入れについては、希望者があれば本人の資質、言語能力などを見極め、できる限り対応したい。 今後も感染症拡大の様子を見極めながら、可能な限り多様な国際交流に取り組み、学生の視野を広げたい。

<まとめ>

2021年度は委員の皆様にご来校いただき、対面にてご意見をいただきました。1名の委員の方はオンラインでのリモート参加となりました。コロナ禍が続く状況をふまえ、それぞれの委員の皆様が、それぞれのお立場で世の中の大きな変化を感じていらっしゃいました。皆様からのアドバイスをもとに、シラバスや学校行事の見直しなど、今後改善に注力していきたいと思います。

次年度の学校運営について、頂戴したご意見に基づき 2022 年の夏期から学内会議を設け、どのような人材を育て、どのような企業に就職させるのかについての議論を最優先し、その他の目標についても計画実施のプラン作り等の取り組みをする予定です。